

JP-U-57-177812

An aspirator installed in an air-conditioner is disclosed. As shown in FIGS. 2-4, cool air flowing in a left-to-right direction of an automobile is branched out by an air-mixing door (13) into two streams: a hot air stream (l) flowing through a heater core (11) and a cool air stream (m) bypassing the heater core (11). The hot air and the cool air are mixed, and the mixed air is directed toward a rear side of the vehicle and is blown out of one of the outlets, an upper outlet (36), a lower outlet (37) or a defroster outlet (38). An aspirator (24, 25, 26) is positioned downstream of a space for mixing the cool air with the hot air and upstream of each outlet (36, 37, 38).

使用後返却願います

公開実用 昭和57—177812



実用新案登録願 (B)

昭和56年 5月 7日

特許庁長官 島田 春樹 殿

フリガナ ヨウヨウクウキチヨウワソウ チヨウ
1. 考案の名称 草綱用空気調和装置用アスピレータ

フリガナ
2. 考案者 住 所 オオサトグンコウナンムラオオアサヒンダイアサヒガシハラ
埼玉県大里郡江南村大字千代字東原39番地
フリガナ
氏 名 チーゼル機器株式会社 江南工場内
カド ノリ
門 範 夫

3. 実用新案登録出願人
フリガナ シンヤクシヤ
住 所 東京都渋谷区渋谷3丁目6番7号
フリガナ
氏 名(名称) チーゼル機器株式会社
代表者 望 月 一成

(国籍)

4. 代理人
〒102
住 所 東京都千代田区飯田橋2丁目7番10号
第1ビル
氏 名 宮 園 国 際 特 許 事 務 所
電話03(234)5650代表
(8029)弁理士 宮 園 純

5. 添付書類の目録

(1) 明細書 1通 (2) 図 面 1通
(3) 願書副本 1通 (4) 委任状 1通



141 番 査

56 065862

177812

公開実用 昭和57—177812

端部が開口する大径の筒体2と、この筒体2の内部に挿入された小径の筒体3からなり、ダクト4の上流側に設置された送風機5からの空気を上記筒体2側に供給し、この筒体2の開口部から上記空気を放出されることに基づき、その筒体2の開口部側を負圧とし、この負圧により車室内におけるダッシュボード6に設けられた孔7に連通するダクト8を介して車室内側における空気を上記筒体3の先端側から放出するようにし、ダクト8内に配置された内気センサなどの温度センサSに対し車室内の空気を当てるようにして、これにより温度センサSが車室内の空気の温度を常時検出できるようにしている。上記ダクト4は通常エアミックスドア13等を収納するダクト10と、ヒーターコア11を収納するダクト12とを互いに接続するようにして構成されるもので、その内部にはエアミックスドア13、モード切換ドア14及びドア15などが設けられている。このようなアスビレータ1は例えばスクリーねじ等の手段でダクト4に固定されている。

公開実用 昭和57—177812

気調和装置用アスピレータの一実施例を示す断面図であり、第1図と同じものは同一符号を用いている。各図において、ヒータコア11、モード切換ドア14等を内蔵するダクト12は実際上は、箱状となり、左右に分割されたダクト素体22とダクト素体23を互いに一体化して成るもので、このダクト12は、その内部空間が仕切板34で前後に仕切られ、仕切板34の後側にヒータコア11が収納され、このヒータコア11を介する空気 m 及びエバポレータ9側から直接送られる空気 m は、仕切板34の上部側を介してダクト12の前面パネル35側に送られ、このパネル35の上部側に設けられた上部吹出口36、下部側に設けられた複数の下部吹出口37、上部側に設けられた複数のデフロスト吹出口38より導出される。この導出される空気の量は、ダクト12内のモード切換ドア14、ドア15、40等で制御される。上記ダクト素体22とダクト素体23との前面パネル35の接続部分にはアスピレータ24が設けられている。上記アスピレータ24は大径の筒体

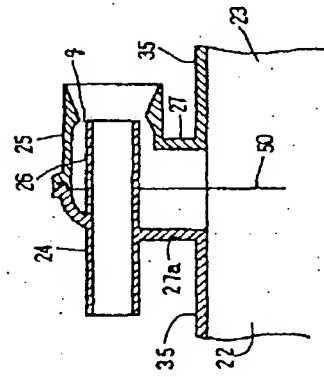
公開実用 昭和57—177812

る必要がなくなり、アスピレータの取付作業を著しく簡略化することができ、またこのアスピレータはダクト12に設けられているために、大径の筒体25側に冷風と暖風との混合された調和空気が供給され、この調和空気が筒体25より車室内に放出されるために、車室内の温度を著しく低下せしめたり、あるいは高くせしめたりする恐れがなくなり、乗員のフィーリングを向上することができる。

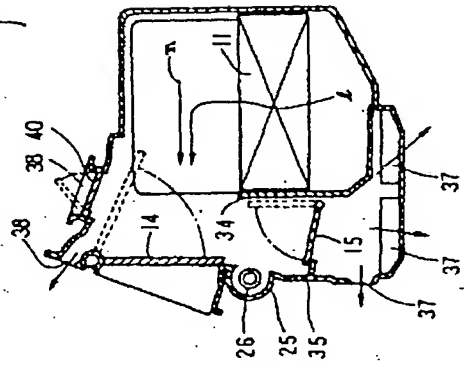
なお、本考案においてはアスピレータをそれぞれ大径の筒体と小径の筒体とに分離し、それぞれをダクト12を構成するダクト素体22, 23に一体化するものとして説明したが、本考案はこれに限定されず大径の筒体と小径の筒体とよりなるアスピレータにおいて、その中心軸に沿って左右に分割し、一方をダクト素体22に、他方をダクト素体23に一体化するようにしてもよい。

以上説明したように本考案によれば少なくともヒータコアを有し、第1, 第2ダクト素体を互いに一体化して成るダクトの分割部分に設けるよう

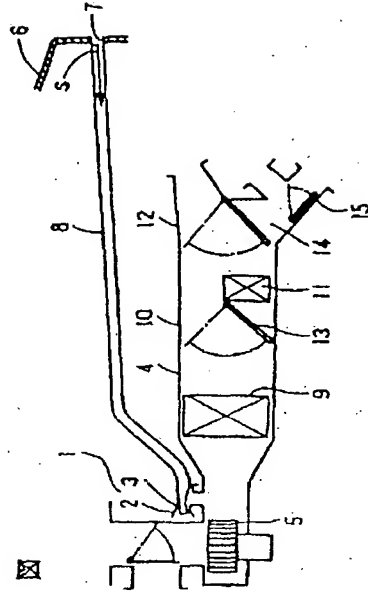
第4図



第3図



第1図



第2図

